

集約型コンパクトシティにおける人口減少を抑制するための都市拠点像 北海道夕張市における都市再編研究 その13

正会員 ○加持 亮輔*
同 瀬戸口 剛**
同 樫村 圭亮***
同 松田かりん***
同 松村 博文****

コンパクトシティ 人口減少抑制 都市拠点
人口移動 住民意向 北海道夕張市

1. 論文の背景と目的

地方小都市では急激な人口減少により、自治体の維持管理費増大と、住民の生活環境悪化が問題となる。住民が安心して住み続けられ、持続可能な自治体運営のためには、集約型コンパクトシティの実現が必要となる。また、コンパクトシティ論では、利便性や医療・福祉のサービスを中心に機能を集約させた都市拠点が重要とされる。しかし、実際に住民が住み続けるために、どのような機能を都市拠점에誘導すべきかは明らかでない。

さらにこのような都市では、人口減少の抑制も重要であるため、人口移動の決定要因の解明と都市拠点が担う人口減少抑制のための方策が求められる。

本論は集約型コンパクトシティ計画¹⁾を進めている北海道夕張市を対象に、集約型コンパクトシティにおいて人口減少の抑制に寄与する都市拠点像を明らかにする。

2. 研究の方法

①既往研究²⁾³⁾により示されている夕張市における住民の生活意向を捉える8つのQOLを枠組みとして、夕張市の都市拠点の将来像に関する検討^{*1}から、都市拠点を整備すべき機能の候補を導く。②夕張市の総合戦略^{*2}策定に関わる住民に対してヒアリング調査^{*3}を行い、都市拠点に対する住民の意向を把握する。③②より、既往研究⁴⁾で明らかな都市拠점에必要な機能を具体化し、夕張市の都市拠点の条件を明らかにする。④地方版総合戦略策定委員会に関係する市民、及び市外からの通勤者を調査対象者として、ヒアリング調査^{*4}を行い、人口移動に対する意向を把握する。⑤④から、既往研究⁵⁾で明らかな人口移動の決定要因^{*5}の具体的内容を明らかにする。⑥②-⑤より、人口減少を抑制するための都市拠点を実現する方策と整備のシナリオを提示する。

3. 人口減少抑制のための都市拠点を実現する方策

既往研究⁴⁾⁵⁾とヒアリング調査^{*3*4}より明らかになった、都市拠点の条件と人口移動の決定要因を比較し共通内容を抽出することで、夕張市において人口減少抑制のための都市拠点を實現する方策(図2-IV)とした。また、既往研究⁵⁾で明らかな各QOLの関心度^{*6}(図2-II)から、都市拠点を實現する方策のシナリオ(図1)を示す。

市民の市外転出の抑制で最も優先すべきQOLは、3つの世代が最も高い関心を示した【教育】であり、具体的な方策として塾や図書機能など「こどもの放課後の居場所整備」や市外の学校に負担なく通学できる「交通結節点の整備」が急務となる。

一方、通勤者の市内転入の促進に最も優先すべきQOLは、転入希望の通勤者に最も関心の高い【住環境】【余暇】で、具体的な方策としては「移住定住者が入居しやすい住宅整備」や「サードプレイス」などが求められる。

次に、市民と通勤者の双方が高い関心を示し、図2-IVで共通の方策を持つ【医療・福祉】【利便性】を連動して整備すべきである。

また、市民の市外転出の要因として関心の高い【経済】は、図7-IVで継続して取り組むべき独自の方策を持っている。

優先度の高いQOLとその具体方策			
STEP 1	教育 (市民) ・こどもの放課後の居場所づくり など (市民: 市民の転出を抑制する方策 通勤者: 通勤者の転入を促進する方策)	住環境 (通勤者) ・移住定住者が入居しやすい住宅 余暇 (通勤者) ・多世代交流ができるサードプレイス など	経済 (市民) ・子育て世代の共働きを支える環境 ・企業の誘致
	医療福祉 (市民 通勤者) ・小児科や産婦人科のある拠点複合施設 など	利便性 (市民 通勤者) ・市外へ行きやすい交通結節点 など	・幼保一体の施設
STEP 2			

図1 都市拠点整備のシナリオ

4. 集約型コンパクトシティにおける都市拠点像

3章の方策を整理し、集約型コンパクトシティにおける人口減少を抑制するための都市拠点像を示す。

- ①市内で買物できる場や公共交通の充実など利便性の向上と医療サービスの担保が重要である。
- ②既存の診療所や市庁舎を清水沢地区に移設するなど、ワンストップで複数の生活サービスを利用できるようにすることが重要である。
- ③公共交通については、市内での充実だけでなく、周辺市町村へのアクセス向上による機能連携や待ち時間を活用できる交通結節点の整備が重要である。
- ④医療サービスについては、特に小児科や産婦人科など、子育てのためのサービスが求められ、他の専門的なサービスは市外病院との連携が重要となる。
- ⑤市民の転出抑制に対して最も重要な方策は、こどもたちの放課後の居場所や共働きを支える環境など、教育と子育て環境の整備である。
- ⑥通勤者の市内転入の促進に最も重要な方策の一つは、中間所得層が入居しやすい住宅など、移住定住者のための住宅整備である。

本研究は、2015年度科学研究費挑戦的萌芽「空き家を活用した市街地集約化による縮小型コンパクトシティ形成手法の構築」(代表:瀬戸口剛)の助成を受けた。

〈Ⅰ〉都市拠点の条件	〈Ⅱ〉関心の高いQOL		〈Ⅲ〉人口移動の決定要因		〈Ⅳ〉都市拠点を実現する方策	方策のターゲット
A 移住定住者の住宅整備 ・低家賃の民間賃貸住宅 ・不動産の流動化 ・公営住宅の制限緩和	市外転出 ・医療や福祉サービスが充実している 124/309	40%	●通いやすい病院がある ●出産の環境が整っている ●小児科がある ●緊急時の医療が充実している ●専門的な医療サービスがある △夜間診療がある △緊急時の介護サービスがある △入院できる病院がある	G 交通結節点 ●市内からの医療・福祉施設へのアクセスを向上 ●市内から市外の専門的な医療機関へのアクセス向上	→働き世代（単身世帯）／働き世代（夫婦世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民と通勤者	
B 高齢者や子供の見守り体制 ・地域交流のためのイベント ・高齢者がこどもたちの放課後の居場所を作る	市内転入 ・医療や福祉サービスが充実している 75/151	50%	●専門的な医療サービスが整っている ●小児科がある ●通いやすい病院がある ●緊急時の医療が充実している △緊急時の介護サービスがある	L 拠点複合施設 ●都市拠点に既存の診療所機能を移転 ●小児科／産婦人科の設置	→働き世代（単身世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民と通勤者	
C こどもの放課後の居場所 ・こどもと大人が場を共有できる施設 ・交通結節点に隣接して待ち時間を潰せる場所 ・自然を活かして、見守りの環境がある公園 ・魔法など既存建物の利用	市外転出 ・希望の進学ができる 149/290	51%	●専門的な医療サービスが整っている ●小児科がある ●通いやすい病院がある ●緊急時の医療が充実している △緊急時の介護サービスがある	G こどもの放課後の居場所 ●塾や習い事の充実 ●図書機能など学習できる場所の整備	→働き世代（夫婦世帯）＋働き世代（子育て世帯）の市民	
D 行政サービスの集約 ・他の機能とワンストップで利用できる ・市役所が交通結節点にある	市内転入 ・教育環境が充実している 38/151	25%	●塾など学力向上を支援する機能がある ●市内から市外の学校へ通う交通が充実している ●高校の教育プログラムが多彩 ●部活動が充実している ●夕張高校が継続する △仕事に関する技術を学ぶ機会がある △市内に大学や専門学校がある	G 交通結節点 ●市内から市外の学校へのアクセス向上	→中学生／働き世代（単身世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民	
E サードプレイスでの多世代交流 ・多世代が気軽に集まる場所 ・自由度の高いオープンスペース ・様々な機能との複合	市内転入 ・子育て環境が充実している 39/151	26%	●周辺市町への公共交通が充実している ●公共交通の待ち機能が充実している △市内の公共交通が充実している △代行業がある	G 交通結節点 ●交通結節点の整備による周辺市町とのアクセス ●周辺市町との都市機能の連携	→働き世代（単身世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民と通勤者	
F 幼保一体の施設 ・子育ての拠点 ・親同士が情報交換できる場 ・複合施設にあって、いろいろな人と触れ合える環境 ・自然のなかで、こどもがのびのびと遊べる環境	市外転出 ・公共交通が充実している 83/250	33%	●日常の買物をする場所が充実している ●夜遅くまで買物する場所がある △医薬品を買うことができる △飲食店が充実している △移動販売車が充実している △新鮮な食料品を買うことができる	L 拠点複合施設 ●夜間まで日用品を購入できる店舗の集積 ●公共交通の待ち時間を有効に使える場所の整備	→働き世代（単身世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民と通勤者	
G 交通結節点 ・バスの拠点 ・待ち時間を有効に使える（買物ができる場所など） ・保育園や幼稚園など共働きを支える機能の併設	市内転入 ・日常品の買い物や娯楽が充実している 146/309	47%	●日常の買物をする場所が充実している ●飲食店が充実している ●夜遅くまで買物する場所がある ●医薬品を買うことができる			
H 雪処理負担の軽減 ・CBMの熱による融雪	市外転出 ・日常品の買い物や娯楽が充実している 107/151	71%	●日常の買物をする場所が充実している ●飲食店が充実している ●夜遅くまで買物する場所がある ●医薬品を買うことができる			
I 企業の誘致 ・高齢者が働く場 ・企業の情報発信の場（特に市内の学生に対し）	市内転入 ・近くに家族・親戚が在住 32/16/115	32%	●飲食店が充実している ●嗜好品を買う場所がある ●仲間が気軽に集まれる場所がある △目的なく立ち寄れる場所がある △図書館がある △夜遅くまで利用できる運動施設がある △市外の娯楽施設への公共交通が充実している △公衆浴場がある	E サードプレイスでの多世代交流 ●仲間が気軽に集まれる場所の充実	→中学生／高校生 働き世代の市民と通勤者	
J 子育て世代の共働きを支える環境の整備 ・幼稚園や保育園の近くに買物できる場がある ・パートやアルバイトなど短期労働の充実	市内転入 ・嗜好品の買い物や娯楽が充実している 107/151	71%	●飲食店が充実している △図書館がある △嗜好品を買う場所がある △目的なく立ち寄れる場所がある	L 拠点複合施設 ●飲食店の充実 ●嗜好品を購入できる店舗	→中学生／高校生 働き世代の市民と通勤者	
K 介護サービスの充実 ・施設に入るまでの中間的（短期的）サービス ・交通アクセスが良い場所に施設	市内転入 ・積雪や冬の寒さの負担軽減 55/309	18%	●飲食店が充実している △図書館がある △嗜好品を買う場所がある △目的なく立ち寄れる場所がある	A 移住定住者の住宅整備 ●中間所得層が新規に入居しやすい住宅の整備 ●子育て世帯向けの住宅の整備	→働き世代（単身世帯）／働き世代（子育て世帯）の通勤者	
L 拠点複合施設 ・日用品を買い物できる店が集まる ・他の機能とワンストップで利用できる（病院や図書機能、交通結節点との複合）	市内転入 ・積雪や冬の寒さ負担軽減 46/151	30%	●飲食店が充実している △図書館がある △嗜好品を買う場所がある △目的なく立ち寄れる場所がある	F 幼保一体の施設 ●仕事や緊急時における一時預かりの体制	→中学生／高校生／働き世代（夫婦世帯）／働き世代（子育て世帯）の市民	
M 希望の職業に就くことができる	市外転出 ・希望の職業に就くことができる 167/410	41%	●中間所得層が入居しやすい住宅がある ●子育て世帯向けの住宅がある ●独身向けの住宅がある △雪に対応した住宅がある △若者世代のコミュニティがある	I 企業の誘致 ●働き口の充実	→働き世代（子育て世帯）の市民	
N 働き口が充実している	市内転入 ●働き口が充実している ●主婦が短時間で働ける環境がある △職種が充実している △就職情報がわかりやすい		●働き口が充実している ●主婦が短時間で働ける環境がある △職種が充実している △就職情報がわかりやすい	J 子育て世代の共働きを支える環境の整備 ●子育てと両立できる短時間の職場の充実	→働き世代（子育て世帯）の市民	

図2 人口減少を抑制するための都市拠点を実現する方策

【参考文献】1) 夕張市まちづくりマスタープラン/夕張市 2) 地方小都市における住民の生活意向に基づいた集約型都市構造の計画研究 -北海道夕張市における都市再編研究その1- /長尾美幸他 (2010) 3) 集約型都市へ向けた市民意向に基づく将来都市像の類型化 /瀬戸口剛他 (2014.4) 4) 人口激減都市における集約型コンパクトシティ形成に向けた拠点像 -北海道夕張市における都市再編研究その11- /櫻村圭亮他 (2016) 5) 地方小都市における人口減少を抑制するためのまちづくり -北海道夕張市における都市再編研究その12- /松田かりん他 (2016)

【注釈】*1 夕張市庁舎内清水沢面整備ワーキンググループ（以下、WG）、市主幹による清水沢拠点整備専門部会、北海道大学による夕張市における都市拠点の提案と議論（H27年7月23日、8月24日）の3つの議論を指す *2 夕張市地方人口ビジョン及び地方版総合戦略：地方人口ビジョン / 各地方公共団体における人口の現状を分

析し、地域住民の認識を共有するとともに、今後目指すべき将来の方向と人口の将来展望を提示するもの、地方版総合戦略 / 「地方人口ビジョン」の内容を踏まえ、地域の実情に応じた今後5か年（2019年まで）における、まちづくりの実施計画 *3 ヒアリング調査①概要：日程 / H27年9月1-3, 9-11, 16-18日, 10月27日, 1人当たり1時間程度聞き取り、対象者 / 総合戦略策定委員会（市民）のメンバー23名、WG6名、夕張市まちづくりマスタープラン策定の委員3名、一般市民2名の計34名 *4 ヒアリング調査②概要：日程 / 2015年9月1-3日、9-11日、16-18日, 1人当たり30分程度聞き取り、対象 / 67名 *5 各QOLで、ヒアリング対象者が人口移動の決定要因として回答した具体的な機能 *6 人口移動の決定要因として1/2以上のアンケート対象者が回答したQOLを「特に関心が高いQOL」、1/3以上以上ものを「関心が高いQOL」とする

- * 清水建設（株） 工修
- ** 北海道大学大学院工学研究院 教授 博士（工学）
- *** 北海道大学大学院工学院 修士課程
- **** 北海道立北方建築総合研究所地域研究部 部長 博士（工学）

- * Shimizu Corporation, M.Eng.
- ** Prof., Graduate School of Engineering Hokkaido Univ., Dr.Eng.
- *** Graduate Student, Graduate School of Engineering Hokkaido Univ.
- **** Director, Northern Regional Regional Building Research Institute, Dr. Eng.